

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和4年5月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター



# 目 次

## I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 ..... I - 1
- 2. 工事の実施状況 ..... I - 2
- 3. 調査結果の概要 ..... I - 3

## II 事後調査結果

- 1. 陸域生態系（鳥類） ..... II - 1



## I 事後調査の概要



## 1. 調査概要

令和4年5月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1に、調査地点の位置は図-1に示すとおりである。

なお、「大阪湾新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく調査として令和4年度は令和4年5月、6月、8月、令和5年2月に実施する。

表-1 事後調査の概要（令和4年5月）

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	5月8日、11日	4回／年（3年毎に実施） （5月、6月、8月、2月）

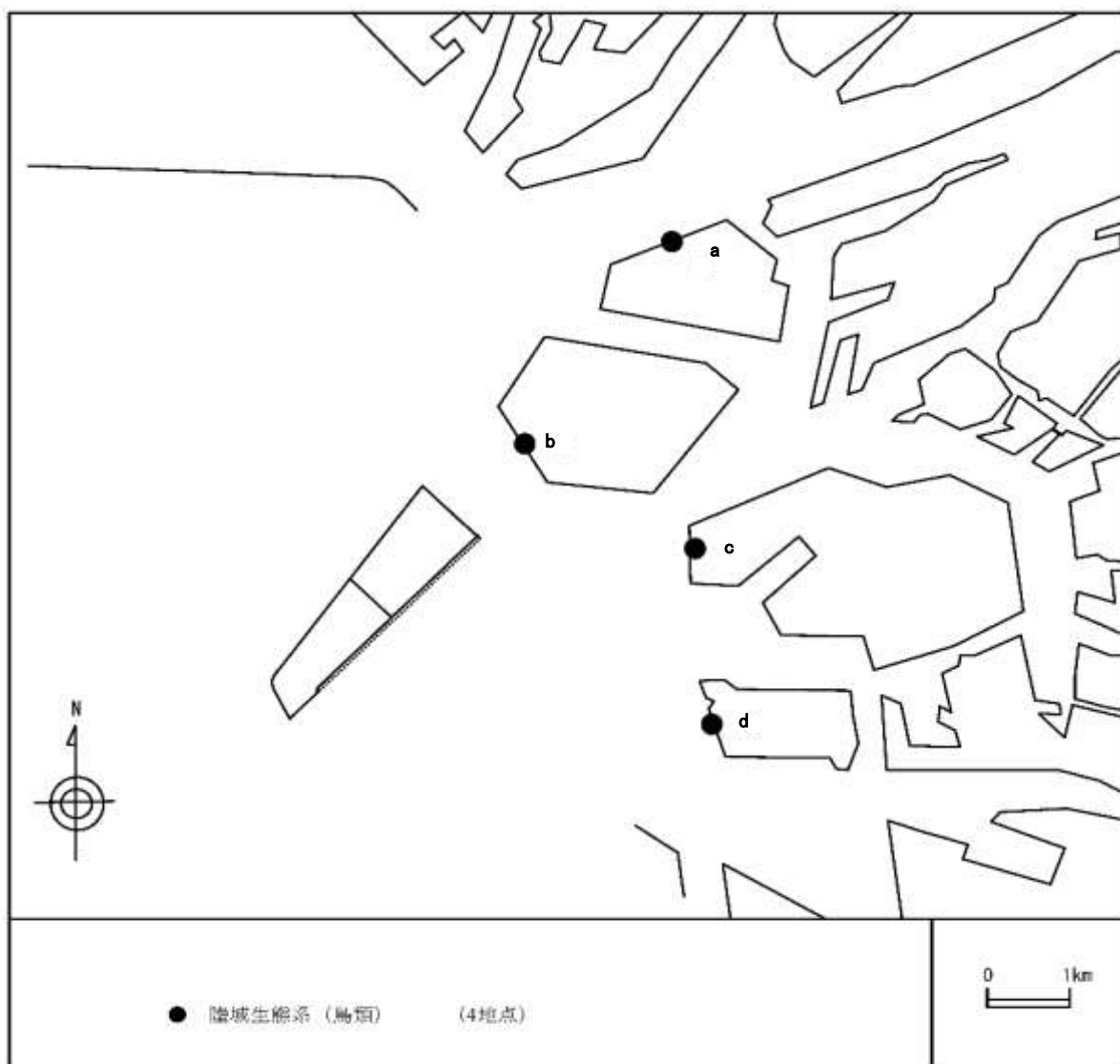
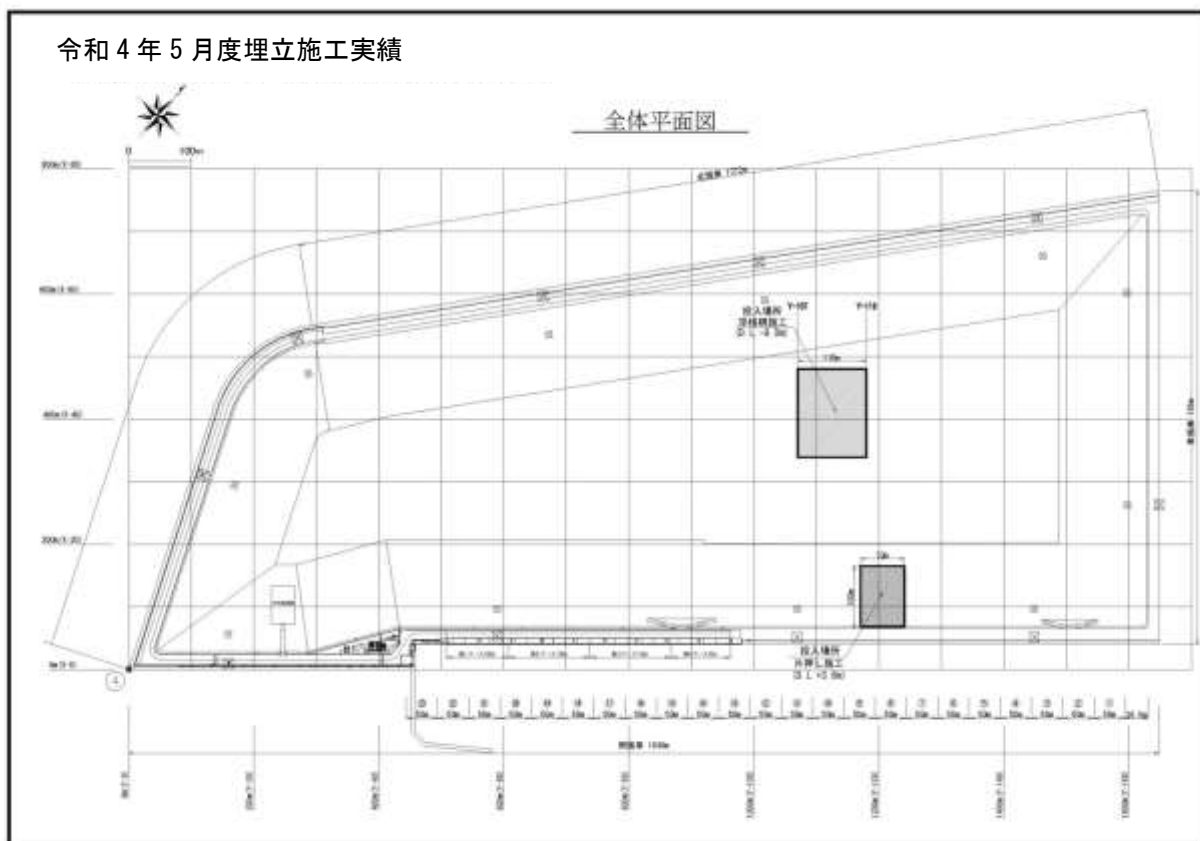


図-1 陸域生態系（鳥類）の調査地点（令和4年5月）

## 2. 工事の実施状況

令和4年5月の工事の実施状況は、図-2に示すとおりである。



埋立量(m <sup>3</sup> )	進捗率(%)
6,539,249	46.8

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m<sup>3</sup>

図-2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)



### 3. 調査結果の概要

#### 埋立地周辺における調査

##### (1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で7目15科28種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点bが最も多く255羽であり、次いで調査地点dの80羽、調査地点cの31羽、調査地点aの21羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点bが最も多く18種であり、次いで調査地点cの14種、調査地点aと調査地点dの6種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点bにおける主要な出現種は、ハマシギ（チドリ目シギ科）、コアジサシ（チドリ目カモメ科）、ホシハジロ（カモ目カモ科）、コガモ（カモ目カモ科）、トウネン（チドリ目シギ科）であった。

事業実施前（平成10年5月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）に実施した5月の結果は、4地点合計で10目21科37種であり、本年度は事業実施前と比べて種数がやや少なくなっていた。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分	平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月	
出現状況	目	8	8	10	9
	科	18	17	21	19
	種	35	37	37	26
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ (35.4%)	ヒドリガモ (18.1%)	トウネン (32.2%)	ムクドリ (42.6%)	
	トウネン (27.2%)	ホシハジロ (11.0%)	コアジサシ (8.4%)	スズメ (12.3%)	
	カワウ (8.8%)	キンクロハジロ (7.6%)	シロチドリ (7.3%)	ツバメ (12.3%)	
	カルガモ (7.1%)	カワウ (6.1%)	アジサシ (4.5%)	コアジサシ (9.6%)	
	スズメ (4.5%)	スズメ (5.0%)	ハシブトガラス (4.3%)	ドバト (6.5%)	

調査地点		a	b	c	d	合計
平成9年8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

## Ⅱ 事後調査結果

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和4年5月分〕

調査日：令和4年5月8日、11日

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	地点別出現個体数				
					a	b	c	d	計
1	カモ目	カモ科	ツクシガモ	冬鳥		4			4
2			オカヨシガモ	冬鳥		3			3
3			カルガモ	留鳥		2	2		4
4			コガモ	冬鳥		12			12
5			ホシハジロ	冬鳥		20			20
6			キンクロハジロ	冬鳥		2			2
7	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥		1	2		3
8	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥	3	6	3	43	55
9	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥			1		1
10		トキ科	クロツラヘラサギ	旅鳥			1		1
11	チドリ目	シギ科	キアシシギ	旅鳥		6	7		13
12			ソリハシシギ	旅鳥		2			2
13			イソシギ	留鳥	1				1
14			トウネン	旅鳥		8			8
15			ウズラシギ	旅鳥			1		1
16			ハマシギ	冬鳥		150			150
17		カモメ科	カモメ	冬鳥		1		27	28
18			コアジサシ	夏鳥	6	30	2	5	43
19			アジサシ	旅鳥		5			5
20	タカ目	タカ科	トビ	留鳥			1	1	2
21	スズメ目	カラス科	ハンボンガラス	留鳥			2		2
22			ハシブトガラス	留鳥	5	1	5	2	13
23		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	3			2	5
24		ヨシキリ科	オオヨシキリ	夏鳥		1			1
25		セッカ科	セッカ	留鳥			1		1
26		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥			2		2
27		ヒタキ科	ツグミ	冬鳥			1		1
28		スズメ科	スズメ	留鳥	3	1			4
合計（7目15科28種）				目数	3	5	7	4	7
				科数	6	8	12	5	15
				種類数	6	18	14	6	28
				個体数	21	255	31	80	387

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和3年度生物リスト」（国土交通省 2021）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（（財）日本野鳥の会大阪支部、2001）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和4年5月分]

調査日：令和4年5月8日、11日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	3	5	7	4	7
	科	6	8	12	5	15
	種	6	18	14	6	28
出現個体数		21	255	31	80	387
主な出現種 (個体数、組成比率)		コアジサシ (6羽、28.6%)	ハマシギ (150羽、58.8%)	キアシシギ (7羽、22.6%)	カワウ (43羽、53.8%)	ハマシギ (150羽、38.8%)
		ハシブトガラス (5羽、23.8%)	コアジサシ (30羽、11.8%)	ハシブトガラス (5羽、16.1%)	カモメ (27羽、33.8%)	カワウ (55羽、14.2%)
		ヒヨドリ (3羽、14.3%)	ホシハジロ (20羽、7.8%)	カワウ (3羽、9.7%)	コアジサシ (5羽、6.3%)	コアジサシ (43羽、11.1%)
		カワウ (3羽、14.3%)	コガモ (12羽、4.7%)	ムクドリ (2羽、6.5%)	ヒヨドリ (2羽、2.5%)	カモメ (28羽、7.2%)
		スズメ (3羽、14.3%)	トウネン (8羽、3.1%)	カルガモ (2羽、6.5%)	ハシブトガラス (2羽、2.5%)	ホシハジロ (20羽、5.2%)
				ハシボソガラス (2羽、6.5%)		
		カイツブリ (2羽、6.5%)				
		コアジサシ (2羽、6.5%)				

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）〔令和4年5月分〕

調査日：令和4年5月8日、11日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモメ科	1	28.6%	1	シギ科	4	65.1%
2	カラス科	1	23.8%	2	カモ科	6	16.9%
3	スズメ科	1	14.3%	3	カモメ科	3	14.1%
3	ウ科	1	14.3%	4	ウ科	1	2.4%
3	ヒヨドリ科	1	14.3%	5	カイツブリ科	1	0.4%
6	シギ科	1	4.8%	5	スズメ科	1	0.4%
				5	ヨシキリ科	1	0.4%
				5	カラス科	1	0.4%

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	シギ科	2	25.8%	1	ウ科	1	53.8%
2	カラス科	2	22.6%	2	カモメ科	2	40.0%
3	ウ科	1	9.7%	3	ヒヨドリ科	1	2.5%
4	ムクドリ科	1	6.5%	3	カラス科	1	2.5%
4	カモ科	1	6.5%	5	タカ科	1	1.3%
4	カイツブリ科	1	6.5%				
4	カモメ科	1	6.5%				
8	トキ科	1	3.2%				
8	ヒタキ科	1	3.2%				
8	タカ科	1	3.2%				
8	セッカ科	1	3.2%				
8	サギ科	1	3.2%				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。